

TTC 提案山行実施記録表

2017年7月15日 報告者:T.E

山行名	東北の百名山2座を登頂 [鳥海山:2236m、月山:1984m、/山形県]	
実施日	2017年7/9(日)~7/11(火) 2泊3日 公共交通機関&レンタカー利用	
天候/参加人員	天候:実行欄に記載 レベル:★★★★☆ 参加人員(申込:5名、参加:5名)	
パーティスタッフ	CL: SL: 会計: 救護:	
参加メンバー	スタッフ省略	
費用(一人当たり) ¥52,700/人 TTCカンパ金 ¥482	・運賃: 乗車券 東京⇄酒田:¥16,420/人(往復)、新幹線 大宮⇄新潟 ¥9,480/人(往復) ・特急券 新潟⇄酒田 ¥2,240/人、(往復):計 ¥28,140/人(往復)×5名 = ¥140,700 ・レンタカー-2日間:¥22,356 ・運転謝礼: ¥5,000 ・燃料代:¥3,112 ・高速代:150 ・宿泊料:(¥9,000 + ¥8,640)¥17,640/人×5名 = ¥88,200 ・通信費:¥1,000 ・入浴料 @500×5名 = ¥2,500 ・カンパ金:¥482 :総計:¥263,500 (¥52,700/人)	

歩行時間 /行動時間	日程		歩行時間	休憩時間	行動時間	行程
	7/10[月]	7/11[火]				
	計画	計画	9:10	2:20	11:30	鉢立~鳥海山新山~鉢立
	実行	実行	9:10	2:35	11:45	(復路一部ルート変更)
	計画	計画	6:10	1:20	7:30	八合目~月山
	実行	実行	4:40	1:10	5:50	~八合目

実行コースタイム記録

7/9(日) 晴れ	埼京線	MAXとき321号	いなほ7号	レンタ	
本厚木駅=====新宿駅=====大宮=====新潟=====酒田===== (国民宿舎大平山荘) 泊					
10:52	11:42 /12:05	12:39/13:06	14:50/15:01	17:13	18:30
7/10(月) 晴れ	1:30 (休5)	(休15)	0:40 (休5)	0:30 (休10)	0:30 (休15)
(大平山荘) =====鉢立-----	賽ノ河原-----	御浜-----	御田ヶ原-----	七五三掛-----	
4:30起床5:20発	5:40	7:15-7:30	8:10-15	8:45-55	9:25-40
1:35 (休10)	(休35)	0:30 (休10)	0:35 (休15)	1:00 (休10)	
---(千蛇谷)-----	大物忌神社-----	新山(鳥海山山頂)2236m-----	大物忌神社-----	千蛇谷大雪溪-----	外輪山分岐----
	11:25-12:00	12:30-12:40	13:15-13:30		14:30~14:40
0:10	0:35 (休10)	0:15	0:20 (休10)	1:00(休5)	
-----七五三掛-----	御田ヶ原-----	御浜-----	賽ノ河原-----	鉢立=====	(羽黒 多聞館) 泊
14:50	15:25-35	15:50	16:10~16:20	17:25	19:20
7/11(火) 晴れ	1:25 (休10)	(休5)	1:10 (休5)	(休35)	0:55 (休10)
(多聞館) -----	月山八合目-----	仏生小屋-----	月山(月山神社)2236m-----	仏生小屋-----	
5:30	6:10/6:20	7:55-8:00	9:15-9:50	10:45-10:55	
1:10 (休5)		いなほ12号	MAXとき342号	湘南新宿	
-----月山八合目=====	かんぼ酒田(入浴)=====	酒田=====	新潟=====	大宮=====	新宿駅=====本厚木駅
12:10~12:20	13:30~14:30	15:00/15:57	18:01/18:12	19:46/20:01	20:33/20:46 21:40

コースの概要、特記事項、反省

東北屈指の花の名山であり、花のベストタイミングに設定するので、「梅雨は、覚悟の上」と云えども7月に入ってから、やはり気を揉む毎日であった。九州北部に豪雨をもたらすなど梅雨前線は、複雑な動きを見せ、一週間前から酒田の天気予報も刻々と変化し、当初、「曇り」から「曇り時々雨、降水確率40%」と悪化し、遂に前々日の木曜日には、「雨 降水確率 90%」にまで為る始末でTTCの基準で行けば、中止とすべきところまで追い込まれたが、手配の事情もあり、参加メンバーには、入念な雨対策を要請し、豪雨でなければ、雨でも断固決行する事とし、必ず、現地入りする旨を伝え、山行実施日を待った。しかし、何たる事か？連絡した翌日より、序々に予報が好転し始め、実施段階では、まさかの大ドンデン返しの「終始、晴れ」に変わり、予報の精度にもどうかと思うが「嬉しい誤算」は、大歓迎で我等にとっては、将に奇跡とも思える「晴れた日、百名山2座」を存分に楽しむ事が出来た。又、一週間前に月山八合目に向かう「県道月山公園線」が雨による土砂崩れのため、通行止めとなり、復旧工事中だとの情報を宿から得て、姥ヶ岳からのルートへと変更も検討しておいたがこれも前日になって復旧工事が完了したとの連絡が入り、事前の不安事項は、すべて解消され、予定通りの実施となった。

7月9日【日】 新宿-大宮-新潟-酒田-大平山荘 <天候: 晴れ>

新宿駅南口 11 時 45 分に集合。メンバ-5 名、天候予報がまさかの好転で晴れとなった事からか、一様に明るい笑顔で体調は、すこぶる良さそうである。手配してあった乗車券を配布し、ここからJRへの改札・入場となり、3日に渡る山行が開始された。予定通りの電車に乗り、酒田駅に定刻通り、17時過ぎに到着した。鶴岡駅を過ぎ、余目(あまるめ)に近付くと車窓から鳥海山の雄姿がはっきりと望む事ができ、否が応でも明日の登山に期待し胸がふくらむ。駅から5分ほど歩いてニッポンレンタカーでレンタカーを借りたが何とまだ走行距離 280km の新車があてがわれ、ビックリ。5人で荷物が多いので7人乗りのワゴンを予約しておいたのだが「エクシーガー、クロスオーバー-7、2.5ℓ」というスバルの新型SUVで頗る運転心地が良い。意味が良く解らないが4WDでなく、「AWD(全輪駆動)」と呼ぶらしいが鳥海ブルーラインという山岳ロードを標高 1000m 付近まで実にスムーズに上っていく。「アイサイト」と呼ばれるシステムが働き、山岳ロードで白線を踏むたびに警告を出されるのには、少し、閉口したけれど3日間、高性能の車に乗車するのも今回の幸運を象徴するひとつかもしれない。宿泊先の大平山荘には、18:30 に到着。鳥海山に登るには、山中の山小屋に宿泊して2日かけて登山する方法と麓に前泊して日帰り登山する方法があるが今回は、後者で入浴や食事、部屋など清々と泊まって山頂を目指す事とした。そういう意味では、大平山荘は、吹浦口の登山口近くに位置し、前泊して日帰り登山をするには、最適の宿泊場所で格安で温泉もよし、部屋もよし、食事もよしで鋭気を養うには、十分なところである。とりわけ、夕食は、豪勢でテーブル狭しと並べられたにも驚いたが、肉厚でぷるんぷるんの新鮮な岩ガキには、一同、感嘆の声を挙げ、おいしくいただいた。前夜祭のごとく、大いに盛り上がったが4:30起床に向け、早々に就寝。

7月10日【月】 大平山荘-鉢立~鳥海山~鉢立-羽黒山 多聞館 <天候: 晴れ>

5:20 大平山荘を予定通り出発。吹浦口から直接、御浜小屋へ上るルートもあるが本日の行程が長丁場であり、往復で1H程、短縮できる最短の象潟(きさかた)ルルートを取る事とし、ピシターセンターのある五合目鉢立に向かう。ここでストレッチを行い、登山届を提出した後、愈々、5:40 登山スタートである。良く整備された登山道を上がって行くとすぐに観光客用か展望台があり鳥海山を背に白糸の滝などの美しい峡谷が眺められる。徐々に高度を上げ、白糸の滝の上部へ廻り込む様子上って行くと道の両側には、早くもマイズルソウやイワカガミ、ゴゼンタチバナ、ツマトリソウ、ハクサンチドリ等々の花が現れ、しばしば、立ち止まり、愛でながら歩く。まもなく、雪渓が現れ、アイゼンをつけるほどでは、ないが際のところを歩く時は、融けた所が凍っていて滑りやすく、慎重に歩を進めていく。短い雪渓を2~3越えたと賽ノ河原に到着、休憩。河原からは、坂を30分程、上ると御浜小屋(神社)に着くがここからは、一面に咲き乱れるお花畑の始まりだ。まず、ミヤマキンポウゲの群生に出迎えられ、現在、御浜小屋は、工事中で前を通過できない為、裏側へ回り込むと今度は、一面にホソバワイベンケイが咲いている。風衝地帯に耐える故か、こんもりと丸く、かたまりながら、広がっている。こんなにいっぱいイワベンケイを見た事がなかったのでもっと興奮。ここは、吹浦口との分岐点で右側斜面には、雪田が広がり、下に鳥海湖が見え、景色も中々の場所である。鳥海湖は、周囲が未だ雪に覆われているが中央部が融け、リング状に割れ目が入ってまるで目玉の様である。ここから、御田ヶ原を通過して七五三掛(しめかけ)までは、なだらかで広い稜線歩きとなるが正面に新山が堂々と聳え、足元には、雪田が育んだ数々の高山植物が咲き乱れ、とりわけ、どこまで続くかと思われるハクサンイチゲの群落を見ながら、歩くのは、実に気分が良く、将に「ルンルン気分で歩く」とは、この事だ。七五三掛から千蛇谷に下りなければならぬが従来の登山道は、梯子で岩場を通過するのだが落石の恐れがあると云う事で新たに外輪山方向に少し、上ったところから、巻き道が設定された様で安全の為、我等も迂回路を通過して千蛇谷へ降りた。今年は、雪が多かった様で千蛇谷の雪渓は、外輪山沿いに七高山直下まで続いている様である。部分的に夏道を覆っている千蛇谷雪渓を幾度か横切りながら新山方向への急な斜面を少し息を切らしながら登っていく。大物忌(おおものいみ)神社直下に最後の雪渓が現れるがかなり、急斜面であり、トラバース気味に上っていくが少し、固く、アイゼンなしでは、かなり、緊張を強いられる。慎重に通過するとすぐに鳥居が目に入り、一面のミヤマキンバイに出迎えられ、メンバ-の歓声と共に大物忌神社に到着。出発より5時間半、ここで外輪山や中央ドーム、眼下に広がる千蛇谷雪渓、扇子森の景色を眺めながら、昼食休憩。神社周辺は、石垣を築いて防いでる程の風衝地帯であるが爽やかで心地良く、眺望を楽しみながら休憩するなど想像だにしていなかったのが本当に嬉しい。山行直前は、ここからの撤退も考えていただけに、恵みの天候に只々感謝である。昼食休憩後、ザックをここにおいて軽装で愈々、最高点の新山に向けてアタック。新山は、岩屑が積み上がった溶岩ドームで異様な山頂へのアプローチとなる。今にも崩れ落ちそうに積み重なった岩屑の上を歩くが不思議なバランスに支えられ、思いのほか、しっかりしている。両手を使いながら慎重に上っていく。スリリングな感じがいいのか、何故か、SRさんのテンションが上がって来て、妙にはしゃいでいる。少し上ると両側がそそり立った大きな割れ目に出て底へ下る。そこから上り返すとまもなく、新山山頂だ。眺望もさることながら、達成感で大満足、狭い山頂故に記念撮影を済ませると早々に下山。大物忌神社まで戻ると往く時には、目に入らなかったか? 足元に白い清楚な花がたくさん咲いているのに気がついた。チョウカイフスマだ。「花の百名山」に記載のとおり、「エメラルドグリーンの繊細な葉に、やや蒼味を帯びた白い花が一群れづつ距離をおいて咲いていた」。下山は、行者岳に上り、外輪山を伝ってと計画していたが行者岳へは、崩落が激しく通行止めとなっており、往路をそのまま、戻る事にした。「アイゼンを装着し夏道を迂回して千蛇谷大雪渓をそのまま、下れないか」とSLからも提案があり、大物忌神社直下の急斜面雪渓を一旦、伏拝岳下方向へ降り、千蛇谷雪渓の上部へ迂回して一気に雪渓を下る事にした。最初の急斜面を苦手な人は、少しジグを切りながら慎重に降りたが千蛇谷のスロープは、なだらかで歩きやすく、外輪山側からの落石に細心の注意を払いながらもズンズンとリズムカルに歩けた。天気もよく、眼下を見下ろしながら、雪渓を我もの顔で歩くのは、少しアドベンチャーな気分も

手伝って、とても爽快で楽しく、今だけしかできない貴重で且つ、思い出に残る体験となった。外輪山分岐の展望台で休憩した後、日本海に沈まんとする太陽とともに歩く事となり、日差しは、一段と厳しいものとなったが七五三掛～御浜～賽ノ河原と順調に下山し、17時25分、鉾立登山口に到着した。行動時間12時間に及ぶハードな山行となったが雪田が育む高山植物のお花畑や荒々しい新山など多彩な鳥海山の魅力を満喫する事ができ、また、ちょっとアドベンチャーな気分でも雪渓歩きを楽しんだり気分の良い山行となった事で思ったほど疲労感を感じさせないものとなった。メンバー全員、元気で体調不調者もなく、明日の月山山行に何の支障もなく、鳥海山山行を終了した。

鉾立からは、今夜の宿泊場所の羽黒山まで移動するがCLがドライブ走行距離の計画を間違えた様で、宿の多間館には、19時30分の到着となった。途中で連絡は、入れたものの、多間館は、とても親切な宿でまず、メンバー全員が入浴させてもらい、その後に個室で夕食にいただいた。夕食は、精進料理であったが地の山菜などとてもおいしく、とりわけ、皮ごと焼いた月山筍の素朴な味には、感動した。

7月11日【火】 多間館一月山八合目～月山～月山八合目－酒田－新宿 <天候：晴れ>

朝食は、おにぎり弁当にしてもらい、宿で済ませた後、宿の主人たちに見送られ、5時30分に出発。土砂崩れの復旧がなされたばかりの月山自然公園線を走って月山八合目の駐車場に止める。ストレッチをした後、6時20分スタートとなるがまず、池塘が点在する弥陀ヶ原のお花畑を眺めながら登り始める。山頂まで穏やかな傾斜の尾根道が続く。草原の緑と雪形の白とのコントラストが目によし、登山道の脇には、多くの花々が目を楽しませてくれる。天気が良く、将に高原ハイキングといった感じでゆったりとした山歩きを楽しみながら山頂へ向かう。昨日の鳥海山に引き続き、花の山で感動のテンションは、少し、下がっているがそれでも、昨日、見なかったシラネアオイやハクサンフウロ、ミヤマリンドウなどが現れると歓声が上がリ、写真撮影の為に頻りに立ち止まる。TSさんは、葉が斑入りで珍しいハクサンチドリを見つけた。その時は、解らなかったが帰って来て調べたら、これこそが「ウズラバハクサンチドリ」で「花の百名山」の月山、タイトル花だったので。幸運でした。圧巻は、頂上手前の木道付近に現れたミヤマウスユキソウ(別名ヒナウスユキソウ)だ。数輪見つけるだけでも大変な花のだが両側に大群落状態が広がっている。これほどのは、見た事がない。ちょっと興奮だ。映画「サウンドオブミュージック」を10数回以上、観たというSTさんから「エーデルワイス」の唄が飛び出す。

木道を渡り終え、雪渓を登ると山頂、月山神社である。全員揃ってお祓いを受け、参拝し、「登拝認定証」を授かる。神社横で湯殿山や姥ヶ岳方面の景色を眺めながらの休憩は、心地よい風が吹き、実に気持ちが良い。古しえの同じ時期、芭蕉が「奥の細道」でした苦勞話に思いを馳せながら、しばし至福の時を過ごす。好転した天候に感謝・感謝である。

※「月山にのぼる。木綿しめ身に……。……。強力と云うものに道びかれて、雲霧山気の中に、氷雪を踏み登る事八理。…………。息絶え身こごえて頂上にいたれば、日没(ひぼつて)、月頭(あらわ)る。」

復路も遠くに鳥海山を望み、草原の景色や道々の花を楽しんだりとゆっくりと下山する。順調に下山でき、12時過ぎに八合目に到着。弥陀ヶ原を周回するバスツアーの観光客でごつた返しの状態であったがストレッチをした後、早々に酒田に向かう。計画時間より早く下山できた為、電車乗車までの時間に余裕がかなりでき、入浴してから帰る事とし、企画段階で検討しておいた「かんぼの宿 酒田」に立ち寄った。

(企画段階から計画書作成段階で歩行時間過少の指摘があり、歩行時間を見直し、入浴をカットしていた経緯あり)ひと汗流したあとは、レンタカーを返却し、予定通り、酒田15時57分発 特急いなほに乗車。新宿には、21時33分の到着となり、再会を期しながら全員、元気で解散となった。

<最後に>

今回は、事前の悪天候予報が前々日になって大ドンデン返しの快晴となる幸運に恵まれ、鳥海山／月山の魅力を満喫する山行となりました。とりわけ鳥海山は、日本百名山にも「これほどの規模の山でこれほど変化に富む山も稀であろう」と記載されているように多彩な魅力を持っている山ですがその全てを確認、体感できた様な気がします。

<日本百名山 鳥海山より引用>

- ・東北には、珍しい颯爽としたスマートな山容
- ・登ってみてボリュームのある深い山では、ないが地形の複雑な点に興味があり優れた風景がいたる所にある
 - ※頂上火口の険しい崖壁
 - ※太古の静寂を保った旧噴火口の湖水
 - ※すぐ眼下に日本海を見下ろす広々とした高原状草地
- ・チョウカイスマ、チョウカイアザミなど山の名を冠した種類が多いなど多彩、豊富な高山植物

降水確率90%予報段階での実施連絡に対しても動揺する事なく、同調していただけた事も成功裡に進められた要因であります。また、行動時間12時間の山行に果敢に挑戦し、終始、笑顔で歩き通していただきました。日頃の体調管理の賜物と敬意を称すると共に種々、ご協力いただき感謝いたします。

CLにとっても二度目の鳥海山／月山では、ありましたがまことに楽しい山旅でありました。素晴らしいパーティメンバーと同行でき、感謝です。ありがとうございました。

— 以上 —